



こんにちは！印南町子育て世代包括支援センターです！！
今回はみなさんがお持ちの「母子健康手帳」についてお伝えさせていただきます。



—— 知って得するまめ知識！ ——

「母子健康手帳について」

みなさんは「母子健康手帳」についてどう認識されていますか？ 普段は「母子手帳」と呼んでいる方が大半でしょうか？

母子健康手帳は、自分の人生の始まりからの記録が記載されているとても大切な手帳なのです。

妊娠の経過、出産の様子、乳幼児期の成長、予防接種、病気の既往歴など、そのほかママの子どもに対する愛情がたまっています。
ご自分のお腹の中に宿した新しい命の成長を感じる素敵な手帳だと思いませんか？

また、育児に必要な情報も凝縮されているので、みなさんぜひ最後まで熟読してください。

手帳は妊娠が確定し、妊娠届出を行うと交付されます。また、これがあれば、日本のどこの市町村でも出産できます。

それまでの健診を見ていなくても手帳をみれば必要な情報や経過が分かる万能な1冊となっています。

小学校によっては、自分の成長を振り返るために「母子健康手帳」を教材にしているところもあります。それだけ大切な成長の記録ということです。

では、日本ではいつからこの手帳が普及してきたのでしょうか？

日本では第2次世界大戦頃、たくさん子どもを産んでもらうために「妊婦手帳制度」が発足しました。（1942年7月13日）



それによって妊婦さんのための優先的な配給や、定期的な健診受診が少しずつ確立していきまし。

「定期的な健診？ 当たり前じゃない？」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、当時は国が国民の誕生前から関わることは世界的にも珍しいことでした。

その頃といえば、生活は貧しく医療も今ほど発達していなかったため、お産で母子が無事であればよいという考え方が一般的でした。



統計をみても妊産婦死亡率は昭和30年では令和元年の49倍もありました。（参考：e-stat）
逆に考えるとこの数十年の間にどれほど医療が発達してきたかが分かりますね。

そして、1948年に「母子手帳」と様式が改正され、様々な時代の流れを受け現在の「母子健康手帳」となりました。

今では電子媒体としてのアプリもできています。みなさんの中にも使用されている方がいらっしやるのではないのでしょうか？

「母子健康手帳」は日本だけの文化ではなく、世界で50か国以上の国や地域で使われていますが1冊にまとまっているのは世界的に少ないそうです。

先ほども触れましたが、手帳には記録するページだけでなく、子育てに必要な情報がたくさん載っています。



お子さんのこれからの成長に必要な不可欠なものばかりです。保育園、小・中学校への入学の際にも必要となってくるので大切に扱っていきましょう。

助産師さんのひしひし

私が結婚するときに母親から「母子健康手帳」をもらいました。母親からの愛情いっぱいプレゼントです。

もう表紙も古く、時間の経過を感じますが大切な宝物です。

この原稿を書く前に半世紀前の母子健康手帳を見て母親の愛を感じました♡



くみなさんへ

母子健康手帳アプリはご存じですか？

今回の記事の中にも出しましたが、「母子健康手帳」のサポート的な役割を担っているアプリがあります♪

みなさんそれぞれ自分にあつたものを利用されているかと思えます。

まだどのアプリも使っていないというママは「母子健康手帳アプリ」を使ってみてはいかがでしょうか？ 妊娠届出時にもお伝えしているかと思いますが、アプリ内設定で印南町を自治体登録していただくと、ママの妊娠週数、お子さんの月齢に合った情報を配信させていただきます！

このアプリは情報配信だけでなく、「成長の日記」や「健診の記録」もできるようになっていますので手軽に健康管理が行えます！
何かご不明な点や気になることがあれば、役場までご連絡ください♪

母子健康手帳と一緒に
つかってほしいアプリです。

母子健康手帳アプリ

妊婦・産後・育児情報を幅広くサポートするアプリ

母子健康手帳

母子健康手帳アプリ

妊婦・産後・育児情報を幅広くサポートするアプリ

母子健康手帳

母子健康手帳アプリ

妊婦・産後・育児情報を幅広くサポートするアプリ



アプリのDL
はこちら